

「密室」

組織委は、I/Oや政
府、東京都、スポンサーと
の調整などにあたる役割。
利害が対立することもあ
り、会長には国内外の人脉
や調整能力が求められてき
た。森会長は昨春の1年延
期で、当時の安倍晋三首相
やI/Oのバツハ会長との
調整にあたり、「森さんだ
からスムーズにできた」と
の声もあった。

ただ、今回は買収だけ
なく、選び方も問題になっ
た。東京都の小池百合子知
事は12日の会見で「どのよ
うな決め方にしていくの
か、手続きの透明性も世界
が見ている」と指摘した。
大会に関わってきた人や
抗議の声を上げた人たちは
どんな人を望むのか。
聖火ランナーに決まってい
る茨城県常陸太田市のパ

目線と考えられる人がい
い」と話す。「これまでの
流れがわかっていて、世界
も納得させるには女性のオ
リンピアンがいいのではな
いか。家族との話では、
橋本聖子一家の名が挙が
ったという。

「トップが交代すること
で、「この人なら」と、大
会に対する国民の気持ちも
変わる機会になればいい」
森会長の処遇の検討や再

U・H・N・O・J・A・P・A・N
代表の慶大4年、能條桃子
さん(29)は「最低でも今回
起きたことの『何が問題
か』が分かっていて、自分
で説明できる人にしてほし
い」と訴える。川淵氏が白
紙になった過程をみて「会
議が機能せず、会議後の懇
親会で重要なことが決まる
男性中心の文化が問題。今
度も密室で決まりそうにな
り、時代に逆行している」と

自浄能力のなさ 世界に

企業統治に詳しい八田進二・青山学
院大名誉教授の話 組織トップの人選
は、プロセスを透明にし、選考理由の
説明責任を果たし、誰もが納得する
ことが大事だ。海外の企業では「立つ鳥
跡を濁さず」で前任者は後任人事に関
わらないのが一般的。時間的制約があ
ったのだから、ガバナンス以前の話で、
組織の自浄能力がないことを世界
に広めてしまった。

21世紀の五輪はアスリートファース
ト(選手第一)やダイバーシティ
(多様性)というレガシー(遺産)
を残すべきだが、経済優先や前大会へ
の郷愁で招致した経緯があり、古い体
質の人たちが中心になり準備を進めて
きたため、起こるべくして起こった問
題とも言える。新会長は五輪本来の姿
を示せるよう、若手や女性を登用する
などドラスティックな改革が必要だ。

ステレオタイプ 気づいて

ソウル五輪シンクロ銅メダリストで
I/Oマーケティング委員を務める田
中ウルヴェ京さんの話 森会長の辞任
表明は説明不足だった。大会の成功に
必要な要件や自らの辞任がなぜ欠か
せなかったのかについての客観的説明が
なかった。「老害」という言葉に嫌悪
感を示したということ、「女はこうだ」と
大きくくくることの弊害を理解し
たはず。森会長に限らず、皆がステ
レオタイプになってしまおう自分に
気づくことが大切だ。後任は老若男女
誰でもあり、なぜその人なのか説明
できなければならない。「若い女性」と
いう人選もステレオタイプ。会長の仕
事内容に照らして必要な能力の基準
を示し、誰がそれを満たすのかという
判断をしてほしい。

三重県桑名市の聖火ラン
ナー、木部規代さん(60)は
後任について「しづらみか
がある人や政治家は嫌だな
あ」と言う。川淵氏の名が
挙がった時は、密室で決ま
るような感じに拒否感があ
ったという。望むのは、し
んがっしかり言っていてモ
ンがはつきりと言って、国際
感覚が豊かな人だ。「女性
なら有森裕子さん、男性な
らイチローさんかな」

調布陥没「施工ミス、要因」

NEXCO有識者委

地下でトンネル掘削

東京都調布市の東京外郭
環状道路の地下トンネル工
事のルート上で、道路の陥
没や空洞が見つかった問題
で、東日本高速道路(NE
XCO東日本)の有識者委
員会(小泉淳委員長)は12
日、シールド工法を用いた

工事の施工ミスが主な原因
だったとする調査結果をま
とめ、公表した。国土交通
省によると、2001年に
施行された「大深度地下使
用法」に基づく工事での事
故は初めてという。現場の
報告書によると、現場の
み過ぎる施工ミスが発生す

地下では、トンネルを掘る
シールドマシンと呼ばれる
大型機械が地盤の土の硬さ
で動かなくなるトラブルが
発生。マシンを動かすため
に土を軟らかくする薬剤を
注入した結果、土を取り込
み過ぎる施工ミスが発生す

るなどして機械とトンネル
上部の地盤に隙間ができ、
地盤が緩んだと指摘した。
さらに、現場は流動化し
やすい砂の層や礫がある
上、人工的に造成された場
所で、「固い岩盤で表面が
覆われていなかった」と
し、こうした「特殊な条
件」が重なったことで陥没
や空洞が発生したと結論づ
けた。今年度内に再発防止
策をまとめ、工事の再開時
期を定めるという。

赤羽一嘉国交相は12日の
関係後の会見で、調布市と
同じ大深度地下で計画され
ているリニア中央新幹線に
ついて「工事主体の見直し
を踏まえ、工事をすると認
識している」としており、
同じ工法を用いたりリニア工
事のスケジュールに影響が
出る可能性もある。
NEXCO東は事故を受
け、周辺でボーリング調査
を実施。ほかにも空洞は見
つからなかったが、地盤が緩
んでいる箇所がある可能性

もあるとして、周辺の補修
を実施する。
芝浦工業大の稲橋真哉教
授(地盤工学)は、「大深
度地下使用法は通常使用さ
れない40m以上の使用権
な」とについて定めたもので、
土木技術とは別の観点の
話。土木工会上は、「地下
40m以下だから安全」とは
全く言えない」と指摘。
「事業者が対策を怠らない
ような見直しが必要ではない
か」と話す。(山本孝
典、平山直理)一橋優太